

爵位の登録、表記、紋章の作成…
本物の貴族になるための道のりを解説



シーランド貴族への道

by: Baron Tanikawa

前書き

初めまして。2008年11月に男爵になった谷川です。知る人ぞ知る「世界最小国家」シーランド公国。その国の貴族になる方法をこの本では解説します。

「知る人ぞ知る」と書きましたが、これは2008年12月にコミックマーケットで同人誌として発行した頃の話で、最近（2011年現在）は「え、あのシーランド?!」という反応をされることが増えました。おそらくは「ヘタリア」の影響ですね。



「マイナーな国の、名ばかりの貴族になって何の意味があるの?」と疑問の方が気になってしまう方は、この本を読む必要はありません。逆に、「貴族になって周りを見返してやる!」などと必死な方にもあまりお勧めしません。基本的には「お遊び」or「ジョーク」です。しかし昨今の為替レートなら、十分に値段以上の活用が可能です。ネタを愛する精神的貴族の方々にこそ読んでもらいたいなあと考えています。

世の中、爵位以外にも色々なモノがお金で買えます。あらゆるモノに値段が付き、お金を用意できればそれを自分のモノに出来るのが資本主義の世界です。個人の内面は関係ありません。成金の例を挙げるまでもなく、支払い能力の高低と精神的高貴さは関係ありません。逆に言えば、爵位の値段が安かろうが自分は貴族であるという自覚からノーブレスオブリージュ精神を発揮できるのであれば、正真正銘の貴族なのです。

要は「活かし方」です。「ネタを愛する」とは、自分のお金や時間をどのように使ったら皆に幸せなひととき（笑い）を提供できるか?という、精神的贅沢行為なのだと思個人的には考えています（笑）。

そんなネタを世界中に提供してくれているロイ・ベーツ公に、そういった意味で感謝と尊敬の念を禁じ得ません。

※2011年6月現在、RedSaveのトップから検索するとシーランド公国の爵位は「Out Of Stock」（売り切れ）となっていますが、**実はオフィシャルアドレスからは購入できそう**です（詳細は後述）。2009年頃からずっと売り切れ状態かと思っていましたが、時折販売が再開されるようです（Wikipediaによると2010年1月の頃は販売していた模様）。仮にこの機を逃しても、まめに該当ページをチェックしていると購入できると思います。

貴方の貴族への仲間入りをお待ちしています。

2011 年6 月 TANI KAWA, 1st Baron of Sealand

目次

前書き

1. シーランド貴族の概要

1. 1. シーランドの解説
1. 2. 爵位取得の流れ

2. RedSave.com での購入方法

2. 1. RedSave.com の仕組み
2. 2. RedSave.com にアクセス ※有料版
2. 3. 購入内容の確認 ※有料版
2. 4. SIGN IN ※有料版
2. 5. BILLING & DELIVERY ※有料版
2. 6. PLACE PAYMENT ※有料版
2. 7. 購入完了 ※有料版

3. 爵位の登録方法

3. 1. 登録キットの到着
3. 2. 証明書の印刷 ※有料版
3. 3. PDF 印刷時の注意 ※有料版
3. 4. Registration of Your Sealand Noble Title ※有料版
3. 5. エアメールの書き方 ※有料版

4. RedSave Pass の解約方法 ※有料版

4. 1. RedSave Pass 解約の準備
4. 2. Web での解約手続き

5. 貴族としての風格について

5. 1. 敬称・表記
5. 2. 紋章学の基礎
5. 3. 紋章の構成 ※有料版
5. 4. オリジナル紋章 ※有料版
5. 4. デザインのヒント ※有料版

6. おまけfor電子書籍

6. 1. 爵位取得後の活用
6. 2. 爵位を巡る第三者との対談 ※有料版

後書き ※有料版

1. 1. シーランドの解説

シーランド公国は、イギリスの南東岸から10km 沖合に浮かぶ「自称」独立国家です。

元々は、第二次世界大戦中にイギリスが建設した「海上要塞」でした。戦後放置されていたこの要塞に、元英国陸軍少佐であるパディ・ロイ・ベーツさんが乗り込んで、「独立宣言」を発表し、要塞を「シーランド」と名付け、自分は「ロイ・ベーツ公」と名乗りました。



当然イギリスは強制的に立ち退かせようと裁判を起こしましたが、当時はイギリスの領海は3海里（黒点線）でシーランドはその外にあるので、イギリス司法の管轄外と判決が下されました。これで実質的には独立したようなものです。

とはいえ、右の写真を見て分かる通り、資源とか産業とか期待できるような規模ではありません。一応ネット上のデータヘブンをするという計画もあり、運営会社も設立してはありますが、それがどの程度稼げているのか不明です。



そんなシーランド公国の外貨を稼ぐ方法の一つが「爵位の販売」。

インターネット上でロード（Lord）、レディ（Lady）、男爵（Baron）、女男爵（Baroness）の爵位を販売しています。

フジテレビ「ザ・ベストハウス123」の番組内で西川きよしもロードの爵位を購入しており、彼もシーランド公国の貴族、西川卿ということになります。

ただ、番組では「西川伯爵」としていたようですが、これは正確ではないと思われます。「Lord」という称号は侯爵・伯爵・子爵・男爵に共通して付けることが出来、日本語での「卿」に相当します。つまり男爵であっても、「Lord TANIKAWA」（訳すと谷川卿）ということも出来るのです。5章で説明しますが、正式名称などについて考えても、ロードとレディーは使いづらいと思います。

※というわけで、本書ではBaron とBaroness を推奨しています。

1. 2. 爵位取得の流れ

さて具体的な爵位取得の流れは以下の通りです。

1. ショッピングサイト RedSave.com で爵位を購入
2. 証明書印刷サイトでPDFを作成し、印刷
3. 登録申込書を郵送
4. RedSave Pass を解約

RedSave.com はイギリスのECサイトです。当然表記は英語で価格は£（ポンド）です。しかもこのサイトはちょっとクセがあって、きちんと手続きをしないと余分に出費してしまいます。

「**RedSave Price**」で安く買いたい時には気をつけてください。

このサイトで最初に何かを購入する際に、自動的に「**RedSave Pass**」なるものが無料で付いてきます。このパスのおかげで「RedSave Price」で買えるわけですが、無料なのは30日だけで、これを過ぎると月に£19.95 費用が発生します。

ネット上でシーランド公国の爵位がらみのマイナス意見を見ることがありますが、ほとんどは「**RedSave Pass**」の解約をし忘れた事によるものです。ちゃんと英語を読んで余裕を持って解約すれば問題はありません。

シーランド公国の爵位の定価は£29.99 で、上記の「**RedSave Price**」だと£19.99（£10割引）が普通のようなようです。ちなみに、筆者が2008年11月5日に購入した時は£12.99でした。クリスマスの時期などにはセールでさらに安くなるようです。クレジットカードの記録によると当時のレートで£1は159円なので、送料入れても日本円で2600円程度でした。

前書きでも触れましたが、2011年1月現在、シーランド公国の爵位は売り切れ（Out of Stock）です。一応£19.99 という値段ですので今のレートだと2600円強、送料入れても3100円くらいでしょうか。どういった事情で「売り切れ」なのかは分かりませんが、販売再開に備えて、本書を熟読しておいてください。

まあ正直いつ潰れておかしくはないので、その時はその時で亡国の貴族を名乗ることができると楽観しています（苦笑）。

2. 1. RedSave.com の仕組み

「[RedSave.com](https://www.redsave.com)」はイギリスのオンラインギフトショップです。

RedSave.com では基本的に「RedSave Price」と「Retail Price」の二つの値段があります。もちろん「RedSave Price」の方が安いのですが、この価格で購入するには「RedSavePass」に加入する必要があります。というか、その値段で購入しようとするとう自動的に加入されます。

最初の購入から30日は無料ですので、今回シーランドの爵位購入以外に利用する予定のない方は、登録キットが届いた後はさっさと解約してしまえば余分な出費はありません。

3. 1. 登録キットの到着

通常なら1週間以内にRedSave.comからエアメールが届きます。中には登録用紙や証明書の印刷用紙などの他に、シーランド公国の位置や歴史が記された「**Official Documents**」も入っています。

必要な手順は「**How to complete the Personalisation Of your Sealand Individual Noble Title Certificate**」という小さめのピラ紙に記してあります。

上記の説明書によると、貴族の証明書をゲットするには3つ方法があります。

一つは今回説明するインターネット上のサイトを利用して自分で印刷する方法。無料です。

二つめはオプション料金を払って印刷されたものを向こうから郵送してもらう方法。必要な料金は£4.99です。

最後は、オプション料金を払って印刷したものを額縁に入れてもらって郵送してもらう方法。額の代金込みで£12.99です。どんな額かは知りませんが、机の上に置くのも壁掛けも可能とのこと。

とりあえず、1つめの選択肢を前提に手順を説明しますが、せっかくなのでちゃんとした物が欲しい方は他のオプションを選択するのもアリです。

5. 1. 敬称・表記

シーランドの爵位証明書に書かれているくらいですから、正式名称は「<爵位><名前> of Sealand」だと思われそうですが、敬称（他者からの呼ばれ方）がどうなるかを列挙します。

まず日本語では、「<名前> 卿」もしくは「<名前> 閣下」となります。

英語だと、「Lord <姓>」や「The Right Honorable Lord <姓>」（RtHon と略される）となります。前者の和訳が「<姓> 卿」、後者は「<姓> 閣下」です。ちなみに二人称の場合は「My Lord」です。「黒執事」でセバスチャンの決めゼリフ「Yes, My lord.」てやつですよ。

Wikipedia の規約では、ヨーロッパの貴族の表記原則は「人名,爵位of 地名」になってます。たとえばBaron の場合、「<名><姓> ,1st Baron of Sealand」となるはずですが、最後の地名は領地のはずなので、実はSealand だと正確ではない可能性もあります。シーランド公国からもらった爵位ではありますがシーランド公国の一部を拝領したりしているわけではありません。領地を持たない貴族ということになります。

そういえばイギリスではナイトの称号が貰えるとか...

ショーン・コネリーやポール・マッカートニーといった有名人が貰っていることで認知度の高いイギリスの騎士（Knight）の称号ですが、こちらの場合は「Sir <名>」になります。これは、男爵以上は基本的に世襲で（イギリスだと一代限りの男爵てのもありますが）、姓にLord が付くのに対し、騎士は一代限りなので、個人名にSir が付くのだそうです。

加えておくと、「貴族」と言えるのは男爵までで、その下である準男爵や騎士は貴族とはみなされません。

...と言うことで、本当はもっと複雑なルールがあるようなのですが、当の英国人自身もよく間違えたりするらしく、小説などの中でも表記の揺れがあったりします。ここに挙げたのはあくまで原則ということで。

5. 2. 紋章学の基礎

貴族になったからには自分の紋章なんかも作りたくなるものですよ？少なくとも筆者はそうでした（苦笑）。

日本の「家紋」と西洋の「紋章」。洋の東西で似たようなシステムが組み上がりましたが、その性質はかなり異なります。まずはその違いについて説明します。

1. 「家紋」は「家」を表すが、「紋章」は「個人」を表す。

日本の家紋はその名の通り「家」のマークです。一家で同じ家紋を使います。これに対して、西洋の紋章は個人の物で、親兄弟であっても異なる紋章を使用します。

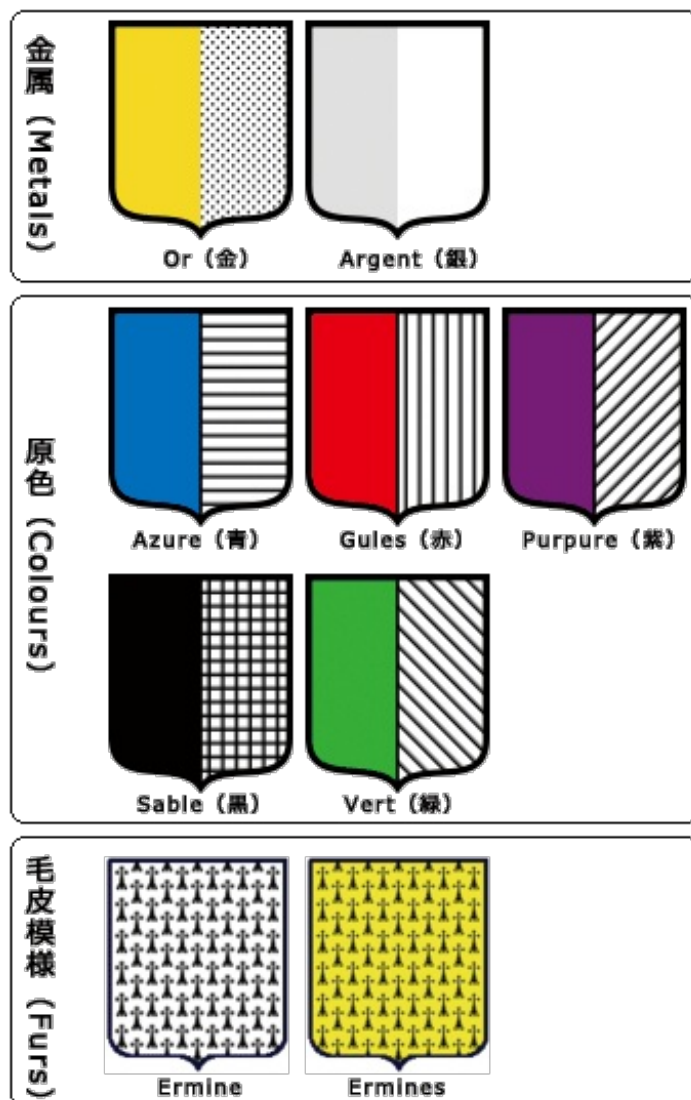
2. 家紋はモノトーンがほとんどだが、紋章はカラフル。しかし色の使い方には細かいルールがある。

どの紋章学の解説書にも書いてあることですが、西洋の「紋章」は個人を識別するためにあります。ご存じとは思いますが、西洋の貴族は全身金属の甲冑に覆われた状態で戦ってました。兜の隙間という視界の悪い中で相手を特定する必要上、紛らわしい色の使い方は禁止されてます。

右の図表は紋章で使われる主要な色 (tinctures) です。「金属」「原色」の右半分は、白黒印刷や硬貨の刻印などの時の表現で「ペトラ・サンクタ手法」といいます。硬貨など色を付けることが困難な場合に縦縞や横縞で色の区別とするのはなかなか興味深いです。

毛皮模様は他にも色々あるのですが、あまり使われないので、代表的な物だけ載せました。

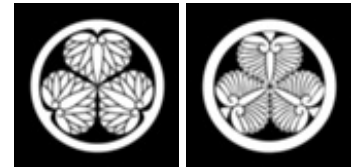
原則としてこれらの色をルールに従って組み合わせなくてはなりません。これを知らずに適



当な色遣いの紋章を作ってしまうと、そのレベルを疑われてしまいます。

3. 家紋は微妙な違いも全て別種として扱うが、紋章は色や構成要素が合っていれば、表現の仕方はかなり違っていても同じ物とみなされる。

家紋は、それ自身が一つの記号です。微妙な違いしかなくても、別物です。右の家紋は「水戸黄門」などの時代劇でも有名な「葵の紋」ですが、徳川本家の家紋と分家の家紋はよく見ると違っていています。そしてこの場合は別の家紋となります。



徳川葵

会津葵

それに対して、紋章は記号の組み合わせです。記号としてが判別できれば、細かい差異は気にしないようです。西洋の紋章は紋章記述 (Blazon) という特殊な表記法によって表記します。これにしたがっていけば、同じ紋章であっても、見た目が若干異なる紋章ができてしまっても間違いではないということになります。

紋章を公式に認めている国には紋章院という機関があって、国内の紋章を管理していますが、イングランドの紋章院の紋章を例に取ります。

右の紋章は上下共にイングランドの紋章院 (College of Arms) の紋章です。兜の形やマントの広がり方・ライオンのしっぽの形など、結構違いがあります。しかし白いライオンのポーズや鳥の色と数、赤いクロスなど「記号」の色や数は同じです。ちなみに下の文字 (モットー) はオプションです。この場合、「紋章記述上」同じ物となります。





6. 1. 爵位取得後の活用

さて爵位を取得して紋章も作ったとなればそれをどのように活用できるかということになります。筆者の活用事例を報告します。

筆者は普通に個人名刺に記載しています。大学の非常勤講師というバリバリのフリーランス業にとっては、このくらいのパフォーマンスは必要と見なされるのか、今のところ大してマイナス面はありません。

男爵になって以降、パーティーや飲み会、会合などに参加した際に「シーランド公国男爵」の肩書きを入れた名刺を配っていますが、なかなかのコストパフォーマンスだと思います。名刺交換の場面で、このネタだけで5分は自分のターンになりますので、かなり楽です。一緒に回っている知人からは反則呼ばわりですが、まず一発で顔を覚えてもらえます。

もちろん正直に、安価で購入したことをバラしてますが、それでも「なんか面白いコトやってる奴だ!」と興味を持ってもらえます。また、その場に知人がいれば、自分で話し始めなくても、「こんなオモロイ奴がいるよ!」と周りに紹介を始めてくれます。また最近「ヘタリア」のおかげでその筋の人達にはシーランドの認知度が上がっているので、理解してもらいやすいです。

ノリの良い方は、その後も何かあると「男爵」とお声がけいただき、色々な方に紹介していただけて大変感謝しています。

Twitterのアイコンなどにも使っていますが、紋章を使っている例は少ないため、分かりやすい色を使用しているおかげでもあります、「ああこのアイコン見たことあります!」と言われることも多いです。

冗談なども言いやすいというのもありますな。「パンがなければケーキを食べればイイじゃない?」とか「これだから庶民は...」といった定番のセリフが自然に使えます。(※勿論ネタとして言ってくださいね。本気で言っていると嫌われます。)

マックなどで安く飯を食っていると、時々知人に「貴族がマック食べてるの?」と突っ込まれることもあります。そんな時も「庶民の食べるものを知るのもノーブレスオブリージュなのさ」と切り返します。ウィットに富んだ会話を普段から楽しむことができるというわけです(笑)。

とはいえ、本当に真面目な場面に出すと逆効果になるかもしれない可能性だけは指摘しております。例えば銀行とか不動産関係で使うと逆に不審人物と思われるそうですね。実際先日引越の際、さすがに男爵名刺は使いませんでした。そういう真面目な処で使用する名刺は別途用意し

ておくべきかもしれません。